

日産化学工業 福地百合子
お茶大家政 ○岩田 和子
林 雅子
矢部 章彦

1. 疎水性合成繊維の汚染性・洗浄性につき、①汚染成分、②汚染方法に焦点をあて、主としてナイロン・ポリエステル平織地について比較検討した結果を報告する。

2. 試料布：精練したナイロンおよびポリエステルの平織地。汚染成分：精製 Fe_2O_3 、および玉川圧縮C級カーボンブラック（C.B. と略す）。汚染方法：乾式汚染機による汚染、および CCl_4 を分散媒とする湿式汚染（バット法、振とう法）により、それぞれ $30 \pm 2\%$ 反射率の汚染布を作成した。湿式では、単味および油成分共存の系についても検討した。洗浄試験：5種の洗剤を用い、ATLAS-Launder-Ometer による洗浄試験を行ない、反射率および Fe_2O_3 脱落率から洗浄効率を求めた。

3. 汚染性 ①C.B.：湿式より乾式が汚染され易く、湿式では振とう式はバット式より汚染されやすい。また、油成分共存の場合は、C.B. 単味より汚染性が高い。繊維別ではナイロンはポリエステルよりやや汚染性が大である。② Fe_2O_3 ：湿式は乾式より汚染性が高い。また乾式・湿式ともポリエステルはナイロンより汚染されやすい。

洗浄性 ①C.B. では、概して湿式汚染布の洗浄性は乾式汚染布より大きい、 Fe_2O_3 は乾式汚染のほうが洗浄性が大である。②概して油成分共存汚染布は、水洗浄の洗浄効率が低い、洗剤による洗浄効率はいずれも油成分共存のほうが高い。③洗浄性の差は、汚染方法よりも繊維、洗剤の種類によるほうが大きい。④洗浄の温度効果は、C.B. 汚染布ではナイロンは高温のほうがよく、ポリエステルは高温での逆効果がみられる。 Fe_2O_3 は概して両繊維とも高温のほうが洗浄性がよい。その他の結果が得られた。